

この夏、各方面での八幡中生の活動を紹介します1

美術部 芸術鑑賞会「デ・キリコ展」見学 7月26日(金)

本校は、部活動を奨励しています。特に夏休みは、時間的な制約も少ないため、練習試合や学部施設見学など、学期中よりも多様な活動が可能な期間です。そこで、本校の部活動がこの夏休みに行った活動を紹介します。

7月26日(金)、美術部は、上野にある東京都美術館で開催されている「デ・キリコ展」に行ってきました。



ジョルジョ・デ・キリコは、1910年代に「形而上絵画」(時間と空間の倒錯や事物の不動性を幻想的に描いた絵画)を描きパリで人気を博した、イタリアの画家、彫刻家です。人物の描写に重点が置かれてきた、それまでの西洋絵画に対し、デ・キリコは人間を顔のない人形(マネキン)に置き換えることで、そうした伝統に挑戦した作品を生み出しました。それらは、第一次世界大戦以降に頻繁に描かれるようになったことから、デ・キリコは、人間をマネキン化することで、戦争を引き起こす人間には果たして「理性」などあるのか、という問いを投げかけているといわれています。



以下、参加した部員の感想を紹介します。

- ・空の雲など、とてもリアルに描かれている反面、顔のない人形マネキンが描かれていて不思議な感じがした。
- ・「南の歌」という作品で出てきた人物や椅子の構成が作為的に不安定に描かれていて不安な感じがした。
- ・(初期の頃の)とてもリアルな自画像はどのように描いたのか知りたくなった。

油絵やデッサン、彫刻など様々な表現に触れ、作品が放つ力を感じながら真剣に見入っていました。実際に今描いている油絵に生かし、新たな表現に挑戦してみたくなったようです。日頃は学校を離れての活動は難しいなか、夏休みだからこそできる充実した時間を過ごすことができました。